嚥下プレートは

色んなところにスイッチがついていて、

・口唇圧

・舌圧

・咬合圧

のトレーニングができる場所を検討する。

追加特許取得し、そして、実装する。

※可能であれば、口内炎・口腔粘膜保護材料として、エピシル（Meiji）や三洋化成の材料と組み合わせても良い。

結局はリハビリ道具としての使い捨て入れ歯として申請していくのが良いかと。

医療機器申請

申請のための手続き（別紙）

嚥下障害・摂食障害に特化するのであれば　→この場合、看護師さんにアプリを使用頂く必要がある。➕家族の同意を看護師さんに得て頂く必要がある

何故なら、きっと使うのは、家族。

認知症の人は自分で使えない。

最終的に圧センサーや回数センサーなどを装備したい。？？

試験的に

走らせるアプリとしては、

誰が使ってくれて、どんなニーズがあるかを調べるもの。市場調査型

Dental Navi

私の歯医者さん

予約管理アプリ

要するに、

☆口腔内の困りごと調査

歯医者の通院に関して

・待ち時間

・治療回数

治療法に関して

・治療方法の選択肢など

・歯周病（写真送ってもらう）

・口腔乾燥、口内炎（写真送ってもらう）

・歯の欠損

を合わせたもの

写真とユーザーの調査〈年齢や使用者（本人の困りごとかどうか）〉

その結果

Ex.使用者が若年者であれば

エステティックなものに方向を変更してもよい。

三洋化成の素材は骨誘導能があるのであれば、抜歯後に使い捨て入れ歯の裏に装備して、インプラント前の骨吸収や粘膜治癒を促進しながら、審美性を保つような工夫をすれば、市場は歯を喪失する人全てに当てはまる。おそらくブリッジの使用者YのX％がZする。

また、ナイトガードとして使用するのであれば、口角のリフトアップや、虫歯予防（フッ素配合）や口臭予防効果（歯周病予防/歯茎パックみたいなの）などがあることを、全部歯が残っている人にも言えると思う。

Ex,口角をリフトアップしながら、口臭予防ができる他人からもバレない付け歯。（ヌーブラみたいなの）